

## 研究の経過と概要

「 自立をふまえて（どの子ども共に生き、共に育つ）  
～一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方～ 」

### 1 研究のテーマについて

今年度、東山梨地区の特別支援学級は58学級となった。一学級の在籍状況は学校規模に関わらず一人学級から多学年大人数と様々であり、抱える障害や特性も多様である。通級指導教室は今年度新たに山梨市の中学校に設置がされ、4教室となった。通常学級においても支援や配慮を必要とする子どもが多くおり、一人一人の子どもの実態は様々である。このため、支援学級・通級指導教室・通常学級の担任・担当が抱える課題は多様化しており、子どもたち一人一人の障害の状況や発達段階、その特性に合わせた支援・指導は、共通した研究課題である。

また、今年度の春季教育研究集会において研究テーマは「どの子ども共に生き、共に育つ」副テーマは「ありのままを認め、『共に生き、共に育つ』ことをめざして」に決定した。具体的な研究内容としては、①各地区で一人一実践など、全員が主体的に研究に参加し、組織研究にあ

た。②レポート内に子どもたちの変容を記載し、成果と課題を明らかにする。③具体的な内容〔インクルーシブ教育を意識した実践〕などの内容を研究していくことが確認された。秋季教育研究集会では子供たちの変容から、成果と課題を明らかにすることとなった。

そこで本年度も、授業実践・学習会・情報交換などを通して、児童生徒の理解と支援方法などを模索し、児童生徒一人一人の実態に合わせ、自立をめざした支援内容、支援の方法に迫るべく本主題を設定した。

### 2 研究の内容と方法

- ・講師を招いて学習会を行い、それぞれの学習内容について理解を深める。
- ・小部会ごと研究テーマを設定し、児童生徒の実態を考えた教材研究などを行い、個に応じた授業づくりをする。また、助言者を招いて授業実践を行う。  
(①部会；障害理解・合理的配慮 ②部会；ユニバーサルデザインを意識した授業づくり)
- ・各小部会の実践について情報交換し、研修を深める。
- ・授業実践や実践報告のもち方について話し合い、次年度に向けて見通しをもつ。

### 3 研究の進め方について

- ①2月の統一授業研で2本の研究授業を行う。(そのうち1本を来年度の県教研で提案)  
※今年度の県教研のレポートは、昨年度行われた研究授業より提案する。
- ②2つの小部会ごとに実践報告や情報交換、授業案検討を行う。
- ③講師を招いて学習会を行う。

### 4 研究の経過

- 5月 8日(水) 第1回特別支援教育部会(研究計画について)  
5月22日(水) 第2回特別支援教育部会(研究計画の確認、夏期学習会の日程調整等)  
○小部会結成(研究テーマ、研究計画、授業者、実践発表順等)

6月12日(水) **第3回特別支援教育部会**

○小部会別研究①(・授業者より・情報交換・実践発表)

8月6日(火) **第4回特別支援教育部会 【夏季学習会】**

○学習会①「ユニバーサル・デザインを意識した授業作り」

講師: 日下部小学校 教頭 岡 輝彦先生

○小部会別研究②(授業者より)

8月28日(水) **第5回特別支援教育部会**

○学習会②「特別支援学級の授業づくり」

講師: 総合教育センター 相談支援部 中野恵子先生

○小部会別研究③(情報交換・実践発表)

9月18日(水) **第6回特別支援教育部会 【秋季教研】**

○小部会別研究④・実践発表・授業研について, 授業者の授業構想等

[今後の予定]

11月27日(水) **第7回特別支援教育部会** (県教研還流報告)

○小部会別研究⑤(授業研に向けて提案と話し合い・実践発表)

1月15日(水) **第8回特別支援教育部会**

○小部会別研究⑥(授業研に向けて提案と話し合い・教具作り等)

2月5日(水) **第9回特別支援教育部会 【統一授業研】**

○小部会別研究⑦ **授業研** (「2部会」で1本ずつ)

2月12日(水) **第10回特別支援教育部会 【冬季教研】** ・部会の総括

○小部会別研究⑧ (小部会毎の総括)

## 5 今次地区教研で論じられた問題と今後の課題について

部会ごとに実践発表を行った。その中で, 学級経営のあり方や, 児童生徒の的確な実態把握, 指導・支援のあり方等について課題が提示され, 意見交換を行った。

授  
業  
ユ  
ニ  
バーサル・デザインを意識した授業作りに迫ることができるよう, 研究を深めたい。

## 6 報告書作成参加者共同研究者について

助言者 高校教育課 副主幹・指導主事 鷹野 美香先生

- ・長沼 薫 (塩山南小) ・植原 恵子 (塩山南小) ・輿石 晴美 (塩山南小)
- ・古屋 美知子 (井尻小) ・三澤 美穂 (山梨小) ・窪川 順一郎 (後屋敷小)
- ・相澤 京子 (加納岩小) ・岡 京子 (加納岩小) ・吉岡 美奈子 (加納岩小)
- ・武井 有衣 (笛川小) ・武井 敏江 (笛川小)

※ 以上は昨年度, 「障害理解・合理的配慮部会①」の所属者

# 知的障害特別支援学級 自立活動指導事例

山梨市立加納岩小学校指導者  
相澤 京子  
支援者 支援員 2名

## 1, 題材名 「楽しく身体を動かそう」

## 2, 題材について

あおば学級（知的障害特別支援学級）には、1・2・3・5・6年生、各学年に1名ずつ計5名の児童が在籍している。学習の終わりに設けるリラックスタイムでは、個々に自由な遊びをしたり、仲良くかかわりながらお人形ごっこやお店やさんごっこで遊んだりする姿が見られるが、うまくかかわれずいじけてしまう児童もいる。

子ども達は体育などで身体を動かすことは嫌いではないが、休み時間には外で遊ぶよりも室内で遊ぶことを好む児童が多い。また不器用で気持ちや身体をコントロールすることが苦手な児童や、友だちと気持ちを合わせたり、一緒に活動したりすることが苦手な児童、思うようにならないとめそめそしたり途中で投げ出したりしてしまう児童がいる。

1年生から6年生まで実態や能力に差がある5名の児童と一緒にできる活動は難しいが、身体を動かすことはみんなが楽しみながら取り組めるのではないかと考え、この題材を設定した。この題材を通して、いろいろな歩き方や身体の動きをする中で、音や声を合図に動いたり止まったりして、自分の身体をコントロールする力をつけさせたい。また順番やルールを守って活動したり、友だちを応援し、友だちと協力したりして活動するなど、適切なかかわり方ができるようになってほしい。そしてみんなと一緒に身体を動かす楽しさを感じてほしいと考えている。

## 3, 題材の目標

○楽しく身体を動かすことを通して、身体の動きを高めることができる。

<身体の動き（1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること>

○友だちとのかかわりの中で、約束を守って活動したり協力したりすることができる。

<人間関係の形成（1）他者とのかかわりの基礎に関すること>

## 4, 児童の実態 別紙

## 5, 指導計画

時	目標	学習内容
1	いろいろな歩き方をしよう	・ 笛のリズムに合わせて歩いたり止まったりする ・ いろいろな歩き方を ・ ボール遊びをする

2	いろいろな歩き方をしよう ボールを的に入れよう	・ミニ平均台をいろいろな歩き方で渡る ・リングの的にボールを入れる
3	いろいろな動きをしよう	・またいだりくぐったり忍者になって進む ・くねくね道を歩く
4	いろいろな動きをしよう	・コーンを使ってジグザグに歩く ・ミニハードルを飛び越える ・ミニ跳び箱を越える
5	いろいろな動きをしよう	・リングを使ってケンケンパをする ・二人で棒を持ち、協力してボールを運ぶ
6	今までの運動をふり返り、話し合いをしよう	・今までにした運動の写真を見て、何が楽しかったか考える ・サーキット運動で何をしたいか話し合う。
7	ルールを確認しよう	・サーキット運動のルールを確認する
8 本時	・いろいろな合図に合わせて動いたり止まったりしよう ・楽しく身体を動かそう	・いろいろな歩き方や止まり方をする ・サーキット運動をする ・自由遊びをする
9	活動の振り返りをしよう	・いろいろな歩き方、止まり方ができたか ・友だちと楽しくサーキット運動ができたか

## 6、本時の学習

(1) 日時 2019年 2月6日(水) 5校時(14:00~14:45)

(2) 場所 加納岩小学校 体育館

### (3) 本時の目標

- ・いろいろな合図に合わせて、動いたり止まったりすることができる。
- ・順番やルールを守って、友だちと楽しくサーキット運動ができる。

個人の目標	A 1年男	・音や合図に合わせて、動いたり止まったりすることができる。 ・順番やルールを守って、サーキット運動ができる。
	B 2年女	・落ち着いて、音や合図に合わせて動いたり止まったりすることができる。 ・みんなと一緒に、身体を動かすことができる。

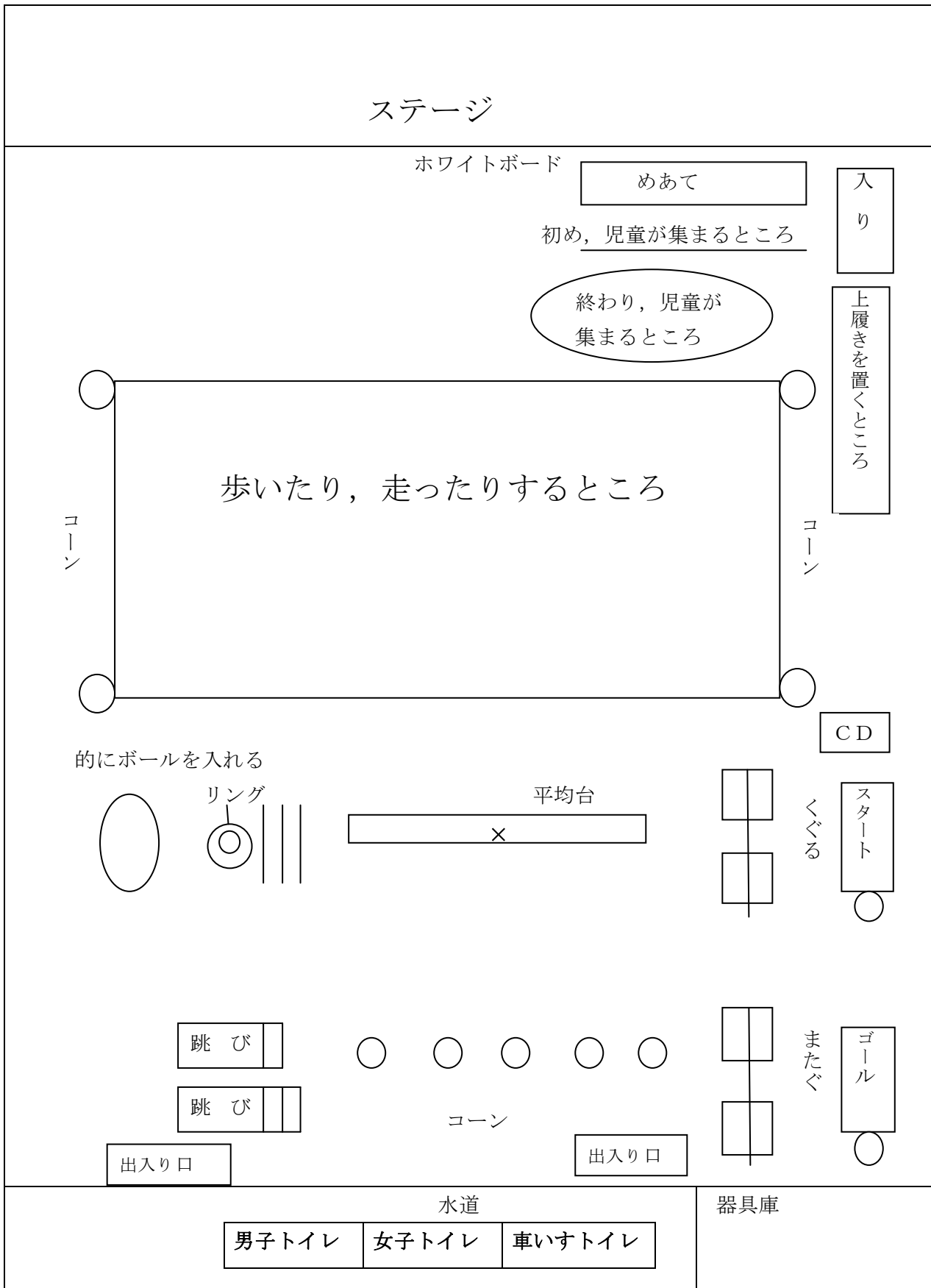
	C 3年男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなと一緒に、動いたり止まったりすることができる。</li> <li>・こだわりとらわれず、身体を動かすことができる。</li> </ul>
	D 5年女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちに声かけをしながら、動いたり止まったりすることができる。</li> <li>・友だちを応援し、自信をもって身体を動かすことができる。</li> </ul>
	E 6年女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの見本になって、動いたり止まったりすることができる。</li> <li>・楽しく身体を動かし、友だちを応援したり、感想を発表したりできる。</li> </ul>

(4)展開

段階	時間	児童の学習活動と内容	教師のはたらきかけ	備考
つかむ・見通す	5	1 今日の活動を知る。 ・集合。横1列に並んですわる。 ・前時までの学習を思い出す。 ・今日の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて集合し、話が聞けるように声をかける。</li> <li>・ステージに上がったたり、体育館の外に出たりしないように伝える。</li> <li>・前時までの話をして今日の活動につなげる。</li> <li>・楽しく身体を動かすための約束、「見る」「聞く」「応援する」を提示して確かめる。</li> </ul>	体育館履き
	3	2 めあてを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">おちつきタイム</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな歩き方や、止まり方をしよう。</li> <li>・順番やルールを守って、楽しく身体を動かそう。</li> </ul> </div>		
活動する	30 (7)	3 いろいろな歩き方、止まり方をする。 ・笛のリズムに合わせて、歩く、走る、止まる。 ・信号の色に合わせて、青→歩く、赤→止まる。 ・後ろ歩き、横歩きなど ・いろいろな動物の歩き方をする。(キリン・ペンギン・ひよこ・ウサギなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩き方、止まり方のやり方を見せる。</li> <li>・笛の合図や信号の色で、動いたり止まったりすることを意識させる。</li> <li>・みんなと一緒に活動できない児童や一人で活動できない児童には支援につき、活動を促す。</li> </ul>	笛 コーン 信号の札

振り返る	(15)	<p style="text-align: center;"><b>チャレンジタイム</b></p> <p>4 サーキット運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忍者になってくぐる。</li> <li>・平均台を歩いてポーズを決める。</li> <li>・ボールをリングの的に入れる。</li> <li>・どちらかの跳び箱を超える。</li> <li>・コーンをジグザグで進む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が楽しく活動できるように音楽をかける。</li> <li>・順番に活動し、自分の番でない時は友だちを応援するように伝える。</li> <li>・ボールを投げる位置や跳び箱など自分で選べるようにする。</li> <li>・平均台など、安全に渡れるように近くにいる。</li> </ul>	<p>CD CD デッキ 台と棒 平均台 跳び箱 ボール 的 コーン</p>
	(8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忍者になってまたぐ。</li> <li>・自由遊びをする。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>はげましタイム</b></p> <p>7 今日の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合。友だちの顔が見えるように、円になってすわる。</li> <li>・感想や友だちの良かったところを発表する。</li> <li>・先生の話聞く。</li> <li>・協力して片付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由遊びでは、それぞれの児童が好きな遊びをする時間をとる。</li> <li>・円になり、感想や友だちの良かったところを話せるように支援する。</li> <li>・児童の良かったところを話すようにする。</li> <li>・教室に戻すものと、体育館にあったものを分けるように促す。</li> </ul>	

# 体育館 会場図



### <授業者の反省>

- ・児童が落ち着いて話を聞き、意欲的に活動することができた。
- ・児童が進んで動きを考え出したり、みんなの先頭に立ち楽しく活動したりできた。
- ・事前にみんなでルールを考えたり、確認したりできたのでけんかやトラブルがなく、活動ができた。
- ・途中、うまくできなくて甘えてくる児童をおんぶしたが、どこまで認めてあげるか、難しい。
- ・自由遊びではそれぞれの児童が、マットを船に見立てたり、ボール遊びやフラフープで縄跳びをしたりと好きな遊びができて良かった。
- ・ふり返りで、児童がそれぞれ感想が言えて良かった。

### <質疑応答・意見交換>

- ・落ち着いて聞く、コーナー分けが大事。タイム(時間で切り替える)とエリア(場所で切り替える)を分けることが大事。子どもたちに落ち着いて話が入った。約束を知るから約束を守ることができる。
- ・絵やことばで、分かりやすい場面設定をしていた。
- ・Bさんが信号のカードを出し、自分の声にみんなが合わせてくれるというところが良かった。(赤と青というシンプルなカードだが)
- ・支援員さんが、子どもたちのチャレンジに拍手したりほめてくれたりしていたのが良かった。
- ・ボールをリングの的に投げる位置や、跳び箱の高さを自分で選べるようにしたので、主体的に活動したりアレンジできたりして良かった。
- ・リングの的にボールが入った時の袋の音が良かった。
- ・サーキット運動は、変化のある繰り返し良かった。
- ・サーキットのそれぞれの場所が良かった。
- ・平均台の難度を自分で変えているところが良かった。
- ・ある程度ルールもあるけど、「まあいいか」というところが余裕があって良かった。そういうことも大事だと思った。
- ・注意をすぐするのではなく、許容してあげること。「わがまま」と「特性」どちらなのか。
- ・とても配慮が細かかった。
- ・良い雰囲気での終わりの会ができ、子ども同士が認め合っていた。
- ・「またやりたい」という声が子どもたちからたくさん出ていた。
- ・通常学級担任をしているが、クラスでもやってみたい。楽しい授業だった。
- ・様々な学年がいるから大変だと思ったが、今までの授業が生きている授業だった。

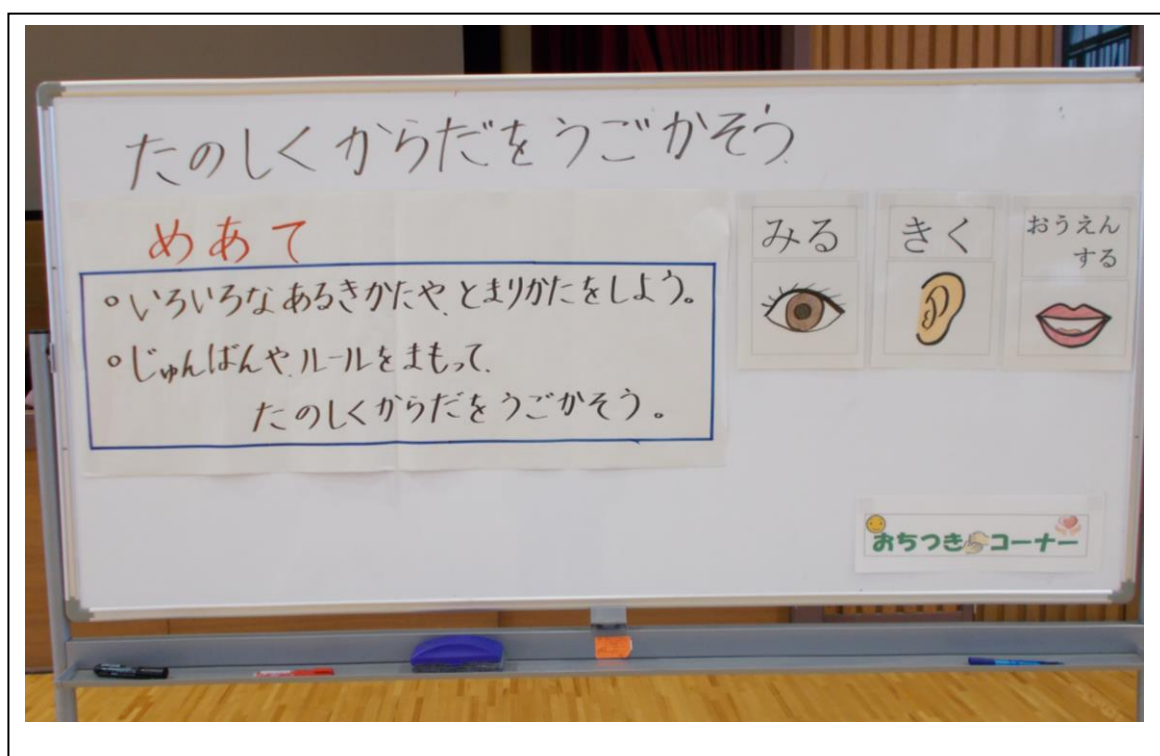
### <研究会での指導助言>

- ・先に子どもたちが体育館に来ていて、落ち着いて始められたのが良かった。
- ・先生の声のトーンが良くて、おちつきタイム・チャレンジタイム・はげましタイムというのが良かった。
- ・先生の許容範囲が広くて良かった。
- ・いろいろな動き方をした時に、子どもたちがとても発想が豊かだった。みんなが真似をして、他者を意識した活動ができていた。



- ・めあては、全部ひらがなで書いていたが、漢字と振り仮名で書くと、いろいろな子に対応することができる。
- ・支援員さんがチームで学び合い、教師同士、子ども同士の関わり合いが大切。支援員さんとのコミュニケーションがとれていて、とても良いチームだった。
- ・サーキット運動を最後に「発表会」にしても良かった。みんなに見てもらう。
- ・いろいろな歩き方、止まり方も子どもたちが考え、真似っこしてみようとしても楽しい活動になった。
- ・授業を見て、一人学級なら、知的学級じゃなかったら、先生の関係がよくなかったら、周りの先生方を巻き込むなら・・・など立場が違って学べる。
- ・先生が孤独になるとへとへとになってしまう。
- ・子どもにいい社会と思えるためには、自分たちがいいと思えることが大事。
- ・先生方が声をあげていくことが大事。

## ホワイトボード



## ルール

- ・笛が3回鳴ったら、集合する。
- ・歩いたり、走ったりしている時、笛が2回で止まる。
- ・平均台の真中と、降りたところの×印で、ポーズをする。
- ・リング的にボールを入れる時は、3本の線のどこから投げてもよい。
- ・ボールを投げる時、入らなかったら2回まで投げられる。
- ・ボールが終わったら、次の人がスタートする。
- ・跳び箱は、1段・2段のどちらかを選び、跳んでもいいし、上って超えてもよい。
- ・コーンの周りは、ジグザグに進む。
- ・友だちがサーキット運動をやっている時は、よく見て応援する。